



## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月8日

上場会社名 株式会社安江工務店 上場取引所 東・名  
コード番号 1439 URL <https://www.yasue.co.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 山本 賢治  
問合せ先責任者（役職名） 常務取締役（氏名） 印田 昭彦 (TEL) 052-223-1100  
半期報告書提出予定日 2024年8月8日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 ( 動画配信のみ )

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	3,223	1.1	15	△81.3	13	△83.2	1	△95.6
2023年12月期中間期	3,188	△0.5	80	—	79	461.9	37	—

(注) 包括利益 2024年12月期中間期 3百万円( △91.1%) 2023年12月期中間期 37百万円( —%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	1.23	1.14
2023年12月期中間期	28.21	26.60

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	4,399	1,786	38.6
2023年12月期	4,356	1,830	40.2

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 1,700百万円 2023年12月期 1,750百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2024年12月期	—	0.00			
2024年12月期(予想)			—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,730	4.5	340	1.1	336	0.5	205	0.3	155.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年12月期中間期	1,351,560株	2023年12月期	1,351,560株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	28,656株	2023年12月期	28,631株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2024年12月期中間期	1,322,921株	2023年12月期中間期	1,319,038株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
中間連結損益計算書 .....	7
中間連結包括利益計算書 .....	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、資源価格等のコスト上昇を販売価格へ転嫁する動きが広がるとともに、雇用や所得環境の改善から個人消費の持ち直し傾向がみられるなど、景気は緩やかな回復基調となりました。一方、円安の進行やロシア・ウクライナ情勢の長期化、中東情勢の緊迫化に伴う地政学リスクに起因した資源・エネルギー価格の高止まりなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

住宅業界におきましては、子育てエコホーム支援事業等の政府による後押しがあるものの、資源価格の高騰を受けた木材・住宅設備機器等の値上げによる消費マインドの低下、設計職・施工監理職など専門職技術者の人材不足など、依然として厳しい状況となっております。

このような環境下で、当社グループは「すべてのお客様に安らぐ『住まい』を提供し、一生涯のおつきあいをする」ことをミッションに掲げ、お客様にとって価値あるサービスが提供できるよう、住宅に関するニーズにワンストップで応え、すべての相談に乗ることができる利便性の高い体制の構築に努めてまいりました。

また、長期ビジョン「Vision2030」において当社グループの存在意義として掲げた「安らぐ『暮らし』を創造し、心豊かな社会を実現する」に向けて、2024年度を初年度とする第2次中期経営計画の基本方針「成長戦略」「質の追求と高効率戦略」「人的資本経営」を推進し、当社グループ全体の収益構造を強化するとともにさらなる企業価値の向上に取り組んでおります。

当中間連結会計期間の業績につきましては、不動産流通事業において反響がやや低調となったものの、主力の住宅リフォーム事業においてイベント集客や引合いが堅調に推移したことから、売上高は前中間連結会計期間と比べ増収となりました。一方で、利益面につきましては、出店に伴う人件費や広告宣伝費の増加に加え、人材確保・定着に向けて賃上げを行ったこと等により減益となりました。

この結果、当中間連結会計期間における売上高は3,223百万円(前中間連結会計期間比1.1%増)、営業利益は15百万円(同81.3%減)、経常利益は13百万円(同83.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は1百万円(同95.6%減)となりました。

セグメントの業績は、以下の通りであります。

#### (住宅リフォーム事業)

住宅リフォーム事業におきましては、建築士などの資格を有するデザイナーによる機能性・デザイン性の高いリフォームを提供するとともに、より高度な専門性と高い付加価値を提供できるよう、外装やエクステリア、オフィスリフォームに特化した専門部署を設置してスピード感のある提案を行うなど、安定的な営業活動を展開してまいりました。加えて、当社リフォーム店舗に併設している子会社のインテリア販売拠点を活用し、住宅リフォームに家具やカーテンをセットでコーディネートするなど、グループ内のシナジーを活かしてお客様満足度の向上に努めてまいりました。

また、当社の強みであるオリジナル建材の「無添加厚塗りしっくい®」に加え、本年1月に発売を開始したオリジナルキッチン「kostad®(コスタッド)」を積極的に提案するなど、他社との差別化にも注力してまいりました。

当中間連結会計期間における当事業の業績につきましては、リフォーム相談会、OB様感謝祭等のイベント集客が堅調に推移したことから、売上高は2,808百万円(前中間連結会計期間比2.2%増)となりました。しかしながら、本年に開設した「豊川店」「藤が丘店」の人員増加による人件費の増加や、積極的な広告宣伝活動等により販売費及び一般管理費が増加したことから、セグメント利益は52百万円(同46.1%減)となりました。

#### (新築住宅事業)

新築住宅事業におきましては、オリジナル建材である「無添加厚塗りしっくい®」や、無垢の木材、薩摩中霧島壁などの自然素材を活かし、デザイン性や機能性を高めた4つの注文住宅ラインナップを揃えており、お客様のニーズに合わせた提案を行うとともに他社との差別化に注力してまいりました。また、マーケティング支援ツールを導入し、お客様ごとの興味や関心に合わせた情報提供やお客様のニーズに応じた最適な提案を行うなど、営業活動の効率化にも取り組んでまいりました。

当中間連結会計期間における当事業の業績につきましては、物件の引渡しが予定通り進んだものの、前期までの受注低調の影響もあり、売上高は154百万円(前中間連結会計期間比8.2%増)、セグメント損失は19百万円(前中間連結会計期間はセグメント損失51百万円)となりました。

## (不動産流通事業)

不動産流通事業におきましては、地域密着型の強みを活かして良質な小規模分譲地の仕入れに注力し、自社での新築注文住宅や新築分譲住宅用地として活用するなど、事業間のシナジーを発揮してまいりました。また、買取再販物件に当社グループの強みであるリノベーションやデザインリフォームをコーディネートしてお客様に提案するなど、資産価値の創造・魅力ある住まいづくりを積極的に推進してまいりました。

当中間連結会計期間における当事業の業績につきましては、不動産価格の上昇に伴う消費マインド低下などの不動産市況の悪化により、新築分譲住宅販売や不動産の買取再販等がやや低調であったことから、売上高は259百万円(前中間連結会計期間比12.2%減)、セグメント損失は17百万円(前中間連結会計期間はセグメント利益33百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は3,041百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円増加いたしました。これは主に未成工事支出金等が49百万円、販売用不動産が8百万円減少したものの、現金預金が64百万円、売上債権が11百万円増加したこと等によるものであります。固定資産は1,358百万円となり、前連結会計年度末に比べ26百万円増加いたしました。これは主にのれんが25百万円、繰延税金資産が14百万円減少したものの、建物・構築物が46百万円、建設仮勘定が13百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,399百万円となり、前連結会計年度末に比べ43百万円増加いたしました。

## (負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は1,941百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に仕入債務が9百万円、未払金が36百万円、未払法人税等が85百万円、賞与引当金が21百万円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金が35百万円、未成工事受入金が135百万円増加したこと等によるものであります。固定負債は671百万円となり、前連結会計年度末に比べ71百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が65百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は2,613百万円となり、前連結会計年度末に比べ87百万円増加いたしました。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は1,786百万円となり、前連結会計年度末に比べ43百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益の計上による利益剰余金の増加が1百万円、新株予約権の増加5百万円があったものの、配当金の支払いによる利益剰余金の減少52百万円があったこと等によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて64百万円増加し、1,299百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローは次の通りであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、営業活動の結果獲得した資金は69百万円(前中間連結会計期間は34百万円の資金の増加)となりました。これは主に賞与引当金の減少21百万円、売上債権の増加11百万円、法人税等の支払額80百万円、営業活動その他67百万円等の減少要因があったものの、税金等調整前中間純利益14百万円、減価償却費27百万円、のれん償却額25百万円、棚卸資産の減少57百万円、未成工事受入金の増加135百万円等の増加要因があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、投資活動の結果使用した資金は78百万円(前中間連結会計期間は22百万円の資金の減少)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出75百万円があったこと等によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、財務活動の結果獲得した資金は74百万円(前中間連結会計期間は154百万円の資金の減少)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出245百万円、配当金の支払い52百万円があったものの、長期借入れによる収入347百万円、短期借入金の純増25百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の連結業績予想につきましては、2024年2月9日に「2023年12月期 決算短信」にて公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	1,235,435	1,299,984
完成工事未収入金	239,808	245,103
売掛金	31,189	37,590
未成工事支出金等	259,481	210,320
販売用不動産	1,215,030	1,206,856
材料貯蔵品	12,954	13,085
その他	31,619	29,706
貸倒引当金	△1,587	△1,227
流動資産合計	3,023,931	3,041,418
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	352,978	399,913
土地	637,544	637,544
建設仮勘定	737	13,901
その他(純額)	46,343	49,250
有形固定資産合計	1,037,604	1,100,609
無形固定資産		
のれん	106,748	81,719
ソフトウェア	11,648	13,392
その他	2,067	2,067
無形固定資産合計	120,464	97,179
投資その他の資産		
投資有価証券	6,260	8,706
繰延税金資産	84,485	69,629
その他	83,572	82,420
投資その他の資産合計	174,317	160,756
固定資産合計	1,332,386	1,358,545
資産合計	4,356,318	4,399,964

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
工事未払金	411,740	399,445
買掛金	19,994	22,428
短期借入金	125,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	439,260	475,084
未払金	144,833	108,220
未払法人税等	95,652	9,736
未成工事受入金	455,818	591,134
賞与引当金	59,789	38,357
完成工事補償引当金	35,819	35,344
その他	137,577	112,198
流動負債合計	1,925,486	1,941,951
固定負債		
長期借入金	573,535	639,193
その他	27,200	32,693
固定負債合計	600,735	671,886
負債合計	2,526,222	2,613,838
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	263,350	263,350
資本剰余金	252,680	252,680
利益剰余金	1,261,183	1,209,893
自己株式	△28,356	△28,390
株主資本合計	1,748,858	1,697,534
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,155	2,855
その他の包括利益累計額合計	1,155	2,855
新株予約権	80,081	85,736
純資産合計	1,830,095	1,786,126
負債純資産合計	4,356,318	4,399,964



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,188,208	3,223,158
売上原価	2,103,190	2,123,427
売上総利益	1,085,018	1,099,731
販売費及び一般管理費	1,004,501	1,084,671
営業利益	80,517	15,059
営業外収益		
受取利息及び配当金	101	133
補助金収入	588	320
売電収入	1,001	833
その他	1,994	1,365
営業外収益合計	3,685	2,652
営業外費用		
支払利息	2,035	2,454
売電費用	545	430
支払手数料	423	21
その他	1,472	1,415
営業外費用合計	4,477	4,321
経常利益	79,725	13,390
特別利益		
固定資産売却益	27	966
新株予約権戻入益	14	—
特別利益合計	41	966
特別損失		
固定資産除却損	508	—
特別損失合計	508	—
税金等調整前中間純利益	79,259	14,356
法人税、住民税及び事業税	33,035	△1,379
法人税等調整額	9,019	14,109
法人税等合計	42,055	12,729
中間純利益	37,203	1,626
親会社株主に帰属する中間純利益	37,203	1,626

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	37,203	1,626
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	1,700
その他の包括利益合計	△7	1,700
中間包括利益	37,196	3,327
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	37,196	3,327

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	79,259	14,356
減価償却費	25,430	27,292
のれん償却額	25,028	25,028
株式報酬費用	22,697	5,654
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△104	△359
賞与引当金の増減額(△は減少)	△17,367	△21,431
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	115	△475
受取利息及び受取配当金	△101	△133
支払利息	2,035	2,454
支払手数料	423	21
新株予約権戻入益	△14	—
固定資産除売却損益(△は益)	480	△745
売上債権の増減額(△は増加)	44,292	△11,695
棚卸資産の増減額(△は増加)	△232,383	57,203
仕入債務の増減額(△は減少)	△87,211	△9,860
未成工事受入金の増減額(△は減少)	264,531	135,316
未収消費税等の増減額(△は増加)	△1,823	97
未払消費税等の増減額(△は減少)	△21,641	△3,256
その他	△14,915	△67,247
小計	88,733	152,220
利息及び配当金の受取額	101	133
利息の支払額	△2,210	△2,471
法人税等の支払額	△55,310	△80,705
法人税等の還付額	2,927	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,242	69,177
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△18,437	△75,844
無形固定資産の取得による支出	△1,000	△4,000
その他	△3,060	1,041
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,497	△78,802
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	100,000	347,000
長期借入金の返済による支出	△227,586	△245,517
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	25,000
配当金の支払額	△38,974	△52,323
株式の発行による収入	12,410	—
その他	△380	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	△154,531	74,124
現金及び現金同等物に係る換算差額	100	49
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△142,687	64,549
現金及び現金同等物の期首残高	1,240,739	1,235,435
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,098,051	1,299,984

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			計	調整額	合計
	住宅リフォーム事業	新築住宅事業	不動産流通事業			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	2,749,710	142,953	273,021	3,165,685	—	3,165,685
その他の収益	—	—	22,523	22,523	—	22,523
外部顧客への売上高	2,749,710	142,953	295,544	3,188,208	—	3,188,208
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	30	—	30	△30	—
計	2,749,710	142,983	295,544	3,188,239	△30	3,188,208
セグメント利益又は損失(△)	98,237	△51,490	33,770	80,517	—	80,517

(注) 1. 売上高の調整額△30千円は、セグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の金額の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			計	調整額	合計
	住宅リフォーム事業	新築住宅事業	不動産流通事業			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	2,808,943	154,745	237,114	3,200,802	—	3,200,802
その他の収益	—	—	22,356	22,356	—	22,356
外部顧客への売上高	2,808,943	154,745	259,470	3,223,158	—	3,223,158
セグメント間の内部売上高又は振替高	707	59	—	766	△766	—
計	2,809,650	154,804	259,470	3,223,925	△766	3,223,158
セグメント利益又は損失(△)	52,993	△19,944	△17,989	15,059	—	15,059

(注) 1. 売上高の調整額△766千円は、セグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の金額の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。